

我孫子市消費者の会

お知らせ

2024年6月19日 第50期 No. 3-575

事務局 〒270-1143 我孫子市天王台3-7-1-201 和田三千代方 TEL 04-7183-1434

<http://www.abikoshi-syuhisyanokai.net/wp/>

地球に人間が住んでいられるのって不思議な事だと考えることはありませんか？地球の中でも砂漠地帯があったり、1年中氷だけの所があったりしますね。その中で、日本は適切な雨が降る「梅雨」という季節があって、潤いの多い日々を送ることが出来ます。考えてみれば、有難いことですね。

東海第二原発再稼働反対 集会とアピール
国は、東海第二原発の使用延長を進めています。本来40年で廃炉にするとした原発を60年まで延長できるとしたのです。しかも、2011年から稼働しなかった期間をプラスできるとまでしたのです。つまり更に13年間プラスされる計算です。

原発は稼働すれば放射性廃棄物が必ず出ます。その処理方法を人類は確立していません。まして、廃炉時期を過ぎた老朽原発を稼働することはこの上なく危険なことです。

福島事故で出された緊急事態宣言は未だに解除されていません。避難せざるを得なかった人々は人生を大きく変えさせられました。原発を認めない理由はそれだけで十分です。まして地震国日本での再稼働は論外です。

6月9日(日) 東葛飾地方の我孫子、柏、松戸、流山、鎌ヶ谷、野田、そして市川の市民グループが主催し、手賀沼公園で集会をしました。150名(正確な数字です)が、集まりました。数日前に申し入れをした結果、公園緑地課が使用箇所の600㎡の草刈りを行なってくれました。

4名からスピーチをいただきました。国際環

境NGO、原子力規制を監視する会、8歳で福島原発事故の避難者、東海第二原発差止訴訟原告団共同代表の方々です。東海村村議からのメッセージも読み上げられました。

草刈りされた広場にアピールボードを持った人達が並びました。「東海第二原発をうごかさないで」「手賀沼を放射能でよごさないで」

1文字は90cm×90cm。圧巻です。

その後、若松通りをアピールしながら手賀大橋まで移動。橋の上で行きかう車もスピードを落とし見てくれました。そしてドローンがやってきて手賀沼を背景に並んだボードを撮影しました。ドローンに見つめられ(?)思わず、手を振ってしまいました。と同時に、これが兵器だったらとても恐ろしいとも思いました。ここで解散。

参加された皆様、結構な距離を歩いていただき、本当にお疲れさまでした〜!! 1.7km。

12日に東京新聞が茨城県版と千葉版に大きく取り上げてくれました。特に東海第二原発の海側からドローンで取った映像は今後、反響を呼ぶと思われます。現在、集会を含めた映像をプロが編集集中です。9月に報告会を開く予定です。(K)



(ドローン撮影: 上野氏)

東北や能登の地震から防災を考える ～男女共同参画の視点から～

講師：小山内 世喜子 さん

(オンライン配信)

日時：6月22日(土) 13:00～15:00

会場：あびこ市民プラザホール

(オンラインの後、対面話し合い 50名)

費用：無料

主催：あびこ女性会議・我孫子市

*詳細はチラシをご覧ください。

PFAS (ピーファス) の講演会 9.1 に決定

たびたび報道されている PFAS の講演会を行なうことにしました。

5月23日に、柏市と白井市の境を流れる「金山落とし」とその支流で発がん性が指摘されている PFOS (ピーフォス) と PFOA (ピーフォア) が検出され、柏市が追加調査結果を発表しました。84本の井戸のうち18本が国の暫定指針値を超過。最大30倍の井戸もあったとのこと。鎌ヶ谷では最大で240倍も。健康被害の訴えはないが追加調査中とのこと。

おそらく上記は下総基地の関連だろうと思います。しかし、私たちの身の回りに有機フッ素化合物を使用しているものはたくさんあります。

一度、基礎から専門家にお話をしてもらおうと企画しました。近くなりましたら、チラシを配布します。ご予約おきください。

記

日時：9月1日(日) 午後

会場：我孫子南近隣センター ホール

(けやきプラザ9F)

講師：植田 武智(うえだたけのり)氏

食の安全・監視市民委員会 運営委員



ツククサ

7月の定例会
7月1日(月) 13:30～15:30
我孫子南近隣センター調理室

広がるセルフオーダー ～便利だけど困っていませんか?～

レストランに入った時、最近はタブレット端末から注文をするところが多くなりましたね。注文した商品を運ぶのも店員ではなく、ロボットに。

高齢者は悪戦苦闘しながら、何とか慣れてはきたものの、18日の朝日新聞社会面に「注文に苦勞、外出の気持ち薄れる。視覚障害者に配慮は?」と問題提起の記事が掲載されました。

人手不足やコロナ禍を背景に急速に広がった仕組みに対応が追い付いていないのです。

記事の中では視覚障害者は「タッチパネル式ではメニューも値段も分からない。」「店員数が減り、メニューの読み上げやトイレへの案内を頼んでも断られることがあった」という。

飲食店以外でも従業員が減り、スーパーマーケットなどではセルフレジが普及し、鉄道も人のいる窓口が縮小されています。

4月1日から改正障害者差別解消法が施行され、「社会的なバリアーを取り除いてほしい」という意思が示された場合には、負担が過重でない範囲内で、必要かつ合理的な対応をすることが求められています。でも、逆にバリアーが増えていると感じる昨今。障害がある人への視点が欠けているのではないのでしょうか～と語られています。高齢者以上に視覚障害の方々、困っていることにはっとさせられる記事でした。

我孫子市と共催で行う今年度の事業のテーマは「消費者とデジタル社会～便利だけど困っていませんか?」です。11月16日(土)の午後、アビイホールで村千鶴子さんに講演していただきます。

誰一人取り残さない社会を!とうたわれてきましたが、日々進むこの社会に「ちょっと待って!」と声を出す必要があるのではないのでしょうか。(k)